

平成27年度 学校評価報告書

練馬区立石神井中学校
校長 田中 隆 史

1、自己評価の結果

(1) 概要

学校経営計画の6つの重点目標であった「確かな学力の定着と向上」「豊かな心の育成」「行事や部活動の充実」「健康教育や食育の推進」「安心で安全な学校環境づくり」「保護者や地域との連携」について自己評価を実施した。各設問で「とてもそう思う」を8点、「まあそう思う」を6点、「あまり思わない」を4点、「まったく思わない」を2点とし、その合計を人数で割り、数値化した。「確かな学力の定着と向上」の平均数値は6.90、「豊かな心の育成」の平均数値は6.59、「行事や部活動の充実」の平均数値は7.48、「健康教育や食育の推進」の平均数値は7.13、「安心で安全な学校環境づくり」の平均数値は7.04、「保護者や地域との連携」の平均数値は7.10であった。

また、自己評価の全体平均数値は7.02となり、「道徳教育の推進」や「安全な学校環境づくり」に関する2つの設問を除いては、どの設問とも7.00を上回る結果であった。

同じ設問で実施した生徒と保護者の学校評価アンケートの全体平均数値は、教員の7.02に対し、生徒は6.70、保護者は6.25であった。これらの結果を大別すると、以下の4つに分けることができる。

- A 教員・生徒・保護者ともに評価が極めて高く、比較的ギャップが小さかった設問（平均数値が6.5以上、平均数値の差が0.7以下）
- B 教員の評価が極めて高かった設問の中で、生徒や保護者の評価が低かったために大きなギャップが生じた設問（教員の評価の平均数値が7.0以上、平均数値の差が0.8以上）
- C 教員・生徒・保護者の中で、評価が極めて低かった設問（平均数値が6.0以下）
- D 保護者の評価で「わからない」と回答した割合が多かった設問（全体の20%以上）

Aに該当する設問

【設問 12】生徒会活動や委員会活動が活発に行われている。

【設問 18】地区祭への参加や氷川神社祭礼パトロールなど地域の活動にかかわっている。

【設問 19】学校公開やHPの更新など地域に学校の様子や取り組みを知らせている。

Bに該当する設問

【設問 3】落ち着いて授業に取り組める雰囲気がある。

【設問 10】体育祭と文化発表会が活発に行われている。

【設問 11】部活動が活発に行われている。

【設問 15】給食だよりの発行や試食会など食育に関する教育が計画的に行われている。

【設問 16】毎月の避難訓練や安全指導など安全に関する教育が計画的に行われている。

Cに該当する設問

【設問 1】わかりやすく、工夫した授業が行われている。

- 【設問 2】個に応じた教科指導を進め、基礎学力の定着を図っている。
- 【設問 7】生徒の心を大切に生活指導が行われている。
- 【設問 8】いじめ、不登校、支援を要する生徒などの対応が迅速に行われている。
- 【設問 9】全教員による一致した生活指導が行われている。
- 【設問 20】小中一貫教育研究の推進など地域と連携した教育活動が行われている。

Dに該当する設問

- 【設問 8】いじめ、不登校、支援を要する生徒などの対応が迅速に行われている。
- 【設問 9】全教員による一致した生活指導が行われている。
- 【設問 13】かたくりの里の訪問など生徒会主催のボランティア活動が活発に行われている。

ここで問題となるのは、B・Cに該当する設問である。Cに該当する設問で、特に教員の評価が低かった設問は、昨年度ほどではないが「道徳教育の推進」であった。これは、道徳の時間の確保や日常生活における道徳的心情を豊かにするための工夫が不十分であったからだと考えられる。また、保護者の評価が低かった設問は、学習指導に関する「分かりやすく、工夫された授業」「個に応じた教科指導の充実と基礎学力の定着」と、生活指導に関する「生徒の内面を重視した指導」「いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応」「全教員による一致した指導」であった。前者は学力向上に取り組んで欲しいという保護者の強い願いの表れであり、後者はいじめや不登校の削減に至らなかったことが原因だと考えられる。さらに、生徒と保護者の評価が低かった設問である「小中一貫教育研究の推進など地域と連携した教育活動」も、生徒や保護者には地域と連携した教育活動が見えにくかったことが原因だと考えられる。

これらの結果を踏まえ、次年度は「確かな学力の定着と向上」に向けた「わかりやすく、工夫した授業」「個に応じた教科指導の充実と基礎学力の定着」、「豊かな心の育成」に向けた「生徒の内面を重視した指導」「いじめ・不登校・支援を要する生徒への迅速な対応」「全教員による一致した生活指導」の5点を重要課題として取り組んでいく必要がある。

Dに該当する設問は、設問内容にやや具体性が欠けていたことや学校からの情報発信が不足していたことが原因だと考えられる。そのため、設問内容の工夫と共に、学校だよりの定期的発行やホームページの更新内容の充実に努めていくことが必要である。

(2) 次年度の課題

①わかりやすく、工夫した授業

保護者の平均数値が他の設問に比べて極めて低かったこと、また、教員の平均数値よりも0.91ポイントも低く、大きなギャップがあったこと。

②個に応じた教科指導の充実と基礎学力の定着

保護者の平均数値が他の設問に比べて極めて低かったこと。

③生徒の内面を重視した指導

教員の平均数値がここ2年下降していること。また、保護者の平均数値が他の設問に比べて極めて低かったこと。

④いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応

教員と生徒の平均数値が昨年度に比べて低かったこと、また、生徒と保護者の平均数値が他の設問に比べて極めて低かったこと。

⑤全教員による一致した生活指導

保護者の平均数値が他の設問に比べて低く、教員との平均数値にギャップがあったこと。

2、学校関係者評価

(1) 総括

本校の自己評価結果が適切であるかどうか、学校評議員より4段階で評価をしていた。各設問で「とてもそう思う」を8点、「まあそう思う」を6点、「あまり思わない」を4点、「まったく思わない」を2点とし、その合計を人数で割り、数値化した。

「確かな学力の定着と向上」の平均数値は7.06、「豊かな心の育成」の平均数値は6.49、「行事や部活動の充実」の平均数値は7.63、「健康教育や食育の推進」の平均数値は7.33、「安心で安全な学校環境づくり」の平均数値は6.89、「保護者や地域との連携」の平均数値は7.41であり、「豊かな心の育成」と「安心で安全な学校環境づくり」以外は、平均数値7.00を上回る結果であった。また、「豊かな心の育成」「行事や部活動の充実」「安心で安全な学校環境づくり」については、昨年度の平均数値より若干低い結果であった。

(2) 課題及び改善策

①「わかりやすい授業」や「個に応じた教科指導」には、校内研修やミニ研修を計画的に実施し、教員一人一人の授業力の向上と効果的な教材や指導方法の開発に取り組む。また、習熟度別授業や少人数授業を導入した指導法の工夫に努め、基礎学力の定着を図る。

②「生徒の内面を重視した生活指導」には、より一層教育相談を充実させ、全教員が生徒理解に基づいた指導にあたる。

③「いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応」には、教育相談委員会や学校いじめ対策委員会を中心に対処策を探り、そのケースに適した対応を組織的に行う。

④「全教員による一致した生活指導」には、教員間の共通理解を図りながら、複数対応で指導にあたる。

⑤「行事や部活動の充実」には、体育祭や文化発表会を在校生だけでなく、地域全体で盛り上がる行事にしていく。

⑥「安心で安全な学校環境づくり」には、地域と連携した防災訓練を計画し、実施する。

(3) 根拠となる意見

①近隣区では習熟度別授業が進められています。積極的な取り組みに期待します。

②設問1・2の教員と生徒の評価が下がっていることから、「指導力の底上げ」の必要性を感じる。ミニ研修などを通じ、個別に指導力を見て対応して欲しい。

- ③小中連携教育は、さらに積極的に取り組んで欲しいと思います。
- ④設問8については対応が難しいケースが増えているのか、連携などに問題があるのか、ケースごとに適切に対応していく工夫が求められる。
- ⑤全教員による一致した生活指導を行うには、教員間の共通理解を図ると共に、複数対応で指導にあたるのが大切だと思います。生徒一人一人を大切に思っている教員の気持ちも伝わり、保護者の理解も深まるのではないのでしょうか。
- ⑥体育祭や文化発表会は在校生だけでなく、地域全体で盛りあげて行けると良いですね。
- ⑦避難拠点の訓練にもっと多くの生徒の参加をお願いしたい。

3、学校評価結果の公表等

自己評価及び生徒・保護者による学校評価アンケートの結果は、1月の学校だよりで公表した。学校評価のまとめは、今年度中に学校ホームページに資料を掲載し、公表する予定である。

4、次年度の学校改善に向けた校長の見解

「確かな学力の定着と向上」「豊かな心の育成」「行事や部活動の充実」「健康教育や食育の推進」「安心して安全な学校環境づくり」「保護者や地域との連携」の6つの重点目標について自己評価を行った結果、「確かな学力の定着と向上」に向けた「わかりやすく、工夫した授業」「個に応じた教科指導の充実と基礎学力の定着」、「豊かな心の育成」に向けた「生徒の内面を重視した指導」「いじめ・不登校・支援を要する生徒への迅速な対応」「全教員による一致した生活指導」が大きな課題として浮き彫りになった。これは、各設問の評価平均数値が低く、教員・生徒・保護者の評価に大きなギャップが見られたからである。

このような結果は、学校関係者評価においても学校評議員の方々から概ね適切であると評価された。

そこで、本校では今年度に引き続き、次の6つを重点目標に掲げ、全校をあげて生徒・保護者・地域の期待に応える学校づくりに全力を尽くす。

- 生徒に学ぶ喜びと意欲をもたせ、確かな学力の定着と向上に努める。
- 豊かな心を持ち、前向きな生き方のできる生徒を育てる。
- 生徒の能力や良さを最大限に引き出す教育活動を推進する。
- 心身ともに健康で生き生きと活動する生徒を育てる。
- 生徒が安心して活動できる学校環境をつくる。
- 保護者や地域との連携を深め、協力体制をより強化する。

特に、上記の課題については、以下のような改善を行う。

(1) わかりやすく、工夫した授業

- ①互いに授業力を高め合う研究授業、わかりやすい授業を実現させる教材や指導法の開発を校内研修の中に位置づけ、計画的に実施する。

- ②理数フロンティア校や特別支援学級発表校として取り組んだ研究内容を生かした科学に対する興味・関心を高める授業や人間関係能力を培う指導を推進する。
- ③図書館管理員を有効に活用した学校図書館の拡充に努め、学習センターとして利用していく。
- ④地域の人材や施設を活用した授業の工夫に努める。

(2) 個に応じた教科指導の充実と基礎学力の定着

- ①学力向上支援講師や学校生活支援員を活用した複数教員による指導体制を整備し、個に応じたきめ細かな指導を行う。
- ②小中一貫教育研究グループとして取り組んだ国語・数学・保健体育・総合的な学習の時間の課題改善カリキュラムを検証する中で、小中の学びの連結を一層強化させる。
- ③学力向上支援講師を活用した放課後の補習・質問教室、定期考査前の質問教室、夏季学習補充教室を計画的に実施する。
- ④本校の実態に応じた数学の習熟度別授業、英語の少人数授業の指導のあり方を探りながら、その実現を図る。

(3) 生徒の内面を重視した生活指導

- ①定期的に開催する教育相談委員会を有効に活用しながら、気になる生徒や支援を要する生徒への共通理解に努め、複数教員によるきめ細かな指導を行う。
- ②特別支援教育コーディネーターを中心に支援を要する生徒の事例研究を計画的に実施し、生徒理解に基づいた指導にあたる。

(4) いじめ、不登校、支援を要する生徒への迅速な対応

- ①不登校対策加配教員や学校いじめ対策推進教員を有効に活用しながら、いじめや不登校生徒の削減に組織的に取り組む。
- ②スクールソーシャルワーカーや主任児童委員の協力を得ながら、学校と地域が連携して不登校生徒にかかわる体制を確立し、その削減に努める。
- ③不登校生徒を対象とした別室指導のあり方を探りながら、「みつがしわ教室」の運営を一層充実させる。
- ④毎月、全校朝礼終了後に実施する「学校生活調査」を通して、各学年・学級の友人関係の実態を把握し、いじめの早期発見とその防止に努める。

(5) 全教員による一致した生活指導

- ①生活指導部を中心に生徒情報を共有し合い、指導への見通しと手立てをもった生活指導を組織的に進める。
- ②必要に応じて学校サポートチームを活用しながら、生徒の問題行動には全校体制で臨む。

5、根拠となる資料

